第3種郵便物認可　朝日新聞　2011年(平成23年)7月7日　木曜日

自慢の三つ星

すご腕ノッカーにライン引きやトンボ作りの名人、選手の体格アップに知恵を絞るマネジャー。本番さながらの練習ができるグラウンドがあったり、校内の畑で選手が野菜を育てたり。チームが誇る「ここが自慢」を集めました。

畑仕事

大阪・英真学園　育て学ぶ 感謝の心

校内の畑でナスの苗を植え替える英真学園の上野明保主将（右）ら＝大阪市淀川区十三東5丁目

ユニホーム姿の野球部員たちが、校内の畑で草むしりや水やりを始めた。英真学園（大阪市淀川区）にある幅約1.5㍍、長さ約18㍍の畑には6月中旬、トマト、ナス、ゴーヤ、ネギ、サツマイモ、枝豆の6種類の野菜が植えてあった。練習の前後に部員が交代で世話をする。

「ニラやネギを自分たちで作れたらいいな」。昨夏の合宿中、食事の支度をしていたマネジャーの二石茜さん(18)の言葉に、井上雅俊監督(35)はピンと来た。野球は大事だが、家族ら支えてくれる人への感謝はもっと大事。それをどう教えるか――。自らで食材をつくることは、その答えになるように思えた。

昨年9月、校舎裏で土作りを始めた。5月には、無農薬で育てたせいか虫食いだらけのホウレンソウを初収穫。自分たちでカレーを作り、味わった。

「手をかけた分、おいしかった。食事をつくる苦労も少しわかった」と主将の上野明保君(17)。「畑からもらった栄養で、夏も頑張ります」　（松井夕梨花）

土への親密度

「ライン引きの名人」と呼ばれる木下京介君＝京都市南区の塔南高グラウンド

ライン引き

京都・塔南　軽くおじぎ

軽くおじぎするぐらいの姿勢をキープ。視線は足元へ。慎重に、それでいて大胆に、後ろに進む。

塔南（京都市南区）の1年生、木下京介君(16)がラインカーを手に動くと、まるで定規を使ったよ